

## 基礎・基本の定着を図る帯活動の工夫

～基本表現集と家庭学習の連携を通して～

## 1. 設定理由

新学習指導要領の導入により、中学校では英語の授業時数が4時間へと増加するなど英語指導の重要性がますます増している。しかし、学習内容が増えるなか「難・易二極化」など生徒の学力差が広がっている。本校の3年生も英語を苦手考えている生徒が多数おり、その理由として「1・2年生の文法」など基礎学力不足を上げている。基礎・基本を定着させるには繰り返し学習を行なうことが大切であるが授業で行なうには時間に限りがある。そこで基本表現集を作成し、毎回授業の10分帯活動として復習を行なう時間を確保し繰り返し学習していけば、大きな力になるのではと考えた。

また基礎・基本を定着させる上で家庭学習も大切であると考えた。家庭学習は授業で学習した内容を整理し定着させる場であるからだ。しかし学習方法がわかっていない生徒にただ「英語の学習をしてきなさい」という指示だけでは教科書やワークの丸写しで終わってしまい何も力がかからない。そこで基本表現集と帯活動に関連させた家庭学習を出し、家庭学習を定着させる指導をしていけば生徒の学習意欲の向上につながると考え本主題を設定した。

## 2. 研究仮説

- (1) 基礎・基本の定着を意図した基本表現集を作成し、それをもとに繰り返しテストを行っていけば基礎学力の向上が図れるであろう。
- (2) 家庭学習を基本表現集と関連させ、学習方法を指導していけば学習意欲の向上につながるであろう。

## 3. 研究内容

- (1) プレテストの(第1回)による生徒の実態把握
- (2) 授業での帯活動と家庭学習(Bノート)の実践
- (3) ポストテスト(第2回)における生徒の変化を比較・検討

## 4. 結論

- (1) 基本表現集を基に繰り返し学習を行なうことにより、スローラーナーの基礎学力が向上した。
- (2) 家庭学習の指導を工夫することにより、前向きに家庭学習を行なう生徒が増え家庭学習ノートの提出率も上がった。